フードバンクに品不足懸念 物価高で寄付減少

#SDGs #新型コロナ #地域総合

2022/5/26 2:00 [有料会員限定]

困窮者らに配る食品の準備をするフードバンク湘南のボランティア（神奈川県平塚市）

食品の寄付を募り生活困窮者らに配る「フードバンク」で品不足を不安視する声が広がっている。長引く新型コロナウイルス禍と食品の値上がり基調が相まって、利用者の増加に寄付が追いつかなくなるおそれがある。専門家は持続可能な仕組みづくりが必要だと指摘する。

「物価高騰で高額品を中心に食品寄付の量が減っている」。フードバンクえひめ（松山市）のスタッフは食品値上げの影響を実感する。フードバンク北九州ライフアゲイン（北九州市）も「コロナ禍が長引くにつれて小規模な飲食業などが縮小・撤退し、寄付がなくなる場合も増えた」という。

フードバンクは個人や事業者からの寄付で食品を調達している。家計や経営が厳しくなると購入や仕入れが減り、寄付に回す余裕も乏しくなる。原燃料高を背景に食品流通が縮小すれば「メーカーや小売店などの寄付が減るのではないか」（神奈川県平塚市のフードバンク湘南）との不安が広がり始めている。

フードバンクの活動は年々広がっている。農林水産省によると、2021年度には全国で178団体とコロナ禍が本格化する前の19年度に比べ5割近く増えた。「コロナ禍でフードバンクへの関心がより高まっている」（外食・食文化課）という。

東京都日野市を拠点に活動するフードバンクTAMAによると、食料を無料提供する「フードパントリー」の同市内での利用件数が4月は前年同月比で4割増えた。芝田晴一朗事務局長は「学生や若い社会人が直接相談に来ることも増えた。物価高は無関係ではない」と話す。

フードバンク北九州ライフアゲインも1～4月の利用件数は前年同期に比べて8%増加。利用増加に寄付が追いつかなければ、フードバンクの運営に深刻な「需給ギャップ」が生じるおそれもある。

フードバンクTAMA（東京都日野市）では直接食品提供の相談に来る若年層が増えたという

全国フードバンク推進協議会の米山広明代表理事はフードバンクについて「貧困をなくしたり、食品ロスを減らしたりとSDGs（持続可能な開発目標）に資する」と強調。「困窮世帯の支援には少なくとも全国で250団体が必要だが、物価高が逆風になりかねない」と危惧する。

日本女子大の小林富雄教授（フードシステム論）は「国の危機管理のためにも、一時的な物価高に左右されない社会インフラとして育てるべきだ」と指摘。フードバンクの活動を安定的に支える仕組みづくりの必要性を訴える。

（井口亮）